

# 旧統一教会が参院選に与えた影響の推定

自民党・井上義行氏の得票を例に

小宮山亮磨（朝日新聞 @ryomakom）・三浦麻子（大阪大学 @asarin）



## 目的

旧統一教会は、いわゆる霊感商法で多額の金を集める「カルト宗教」として社会的に問題視されてきたが、一部の政治家はそれでも教団との関係を保ってきた。

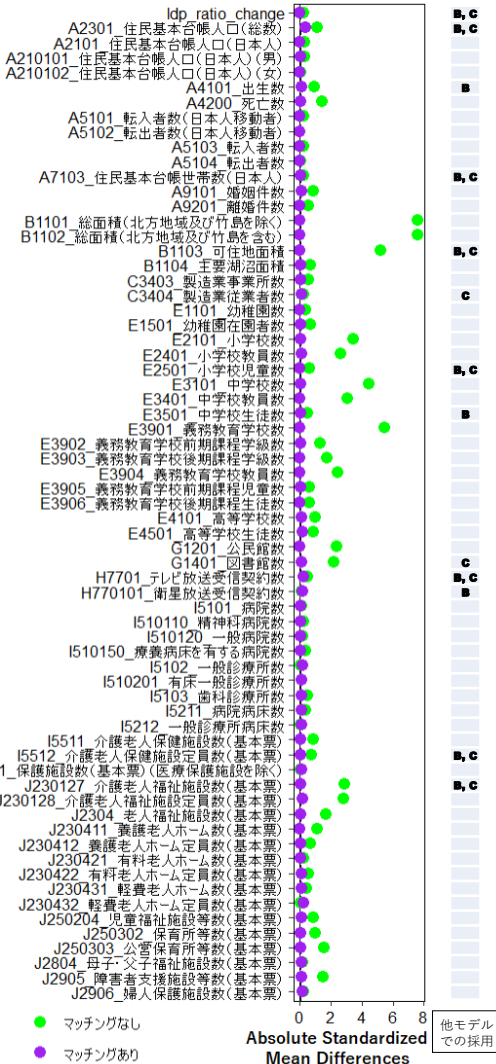
政治家は教団からどれだけの「恩恵」を受けられるのか。2022年の参院選比例区で約16.5万票と、前回19年より得票を倍増させて当選した井上義行氏（自民、安倍晋三元首相の元秘書官）のデータから推定する。



## 手法

井上氏は22年参院選の前に旧統一教会の「賛同会員」になった。このため、各市区町村での井上氏の得票について

## 共変量のバランス（モデルA、遺伝的）



## 22年の得票 = 19年の得票 + 旧統一教会票 + 誤差

との数式が成立していると想定される。

旧統一教会票は、教団が「家庭教会」と呼ばれる施設をおいている計259の市区町村では、施設のない市区町村よりも多いと考えられる。

この仮説にもとづき、教団施設の有無以外の条件が似ている市区町村どうしを「マッチング」させ、井上氏の得票率の増え幅を各カウンターパートと比較することで、施設があることによる得票率への影響を推定した。マッチングには、井上氏を除いた自民党比例区の合計得票率と人口のほか、政府の「社会・人口統計体系」のデータをもとにした。

## マッチングに用いた3つのモデルと2つの方法

社会・人口統計体系には、人口・世帯、自然環境、経済基盤など11の分野がある。計約800項目の基礎データのうち、欠損がなく比較的新しいデータが入手できた8分野の67項目を抽出し、人口で割って標準化したうえで、以下の3モデルについて、「遺伝的」と「最近傍」の2つの方法でマッチングした。

A: 67個の変数すべて

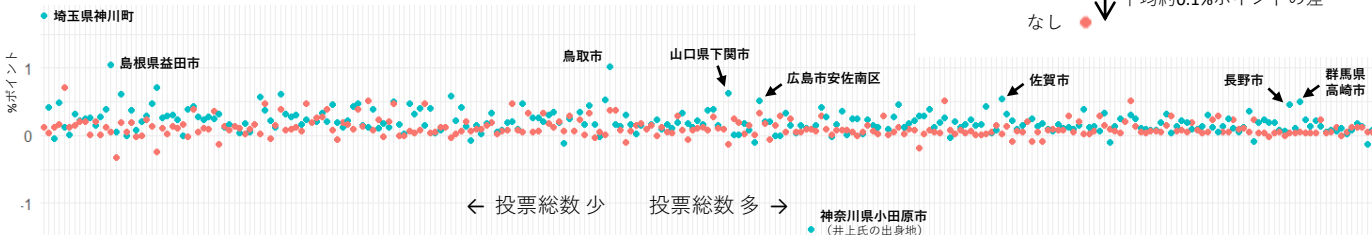
B: 全体のうち効果量の大きい変数9個

C: 各分野のうち効果量が最大の変数8個

マッチングの結果は表の通り。

	マッチング法	SMDの絶対値(平均)	得票率への教団施設の効果(%ポイント)
A	遺伝的	0.096	0.095
	最近傍	0.144	0.092
B	遺伝的	0.078	0.114
	最近傍	0.130	0.100
C	遺伝的	0.082	0.092
	最近傍	0.127	0.097

## マッチングした各市区町村での得票率変化量（モデルA、遺伝的）



## 結果

教団施設がある市区町村では、ない市区町村と比べて、井上氏の得票率の増え幅が平均して約0.1%ポイント、有意に多かった。どのモデルでもこの結果は同じだった。

## 考察

22年の参院選では、教団施設のある259市区町村で約2380万人が投票した。0.1%ポイントの得票増は約2万票に相当する。教団関係者による選挙支援は施設のない市区町村にも及ぶと考えるのが自然なので、上乘せされる票は、実際には2万票より多いとみられる。

自民党の比例区候補はこの選挙で、少なくとも約12万票あれば当選できた。0.1%ポイントの得票増は、小選挙区での当選を後押しするには十分ではないが、比例区では小さな数字とは言えず、政治家にとって十分な魅力があると考えられる。